

検査結果の見方

～検体検査(肝機能・脂質・腎機能)～



社会医療法人抱生会丸の内病院

診療技術部 検査課

検体検査とは

人体から得られた「血液・尿・便・体液・喀痰など」について、様々な成分がどのくらい含まれているかを調べるものです。

それぞれの臓器ごとに、含まれる成分の種類や割合が異なるため、身体の状態や治療の経過をみるために利用されます。

基準値（基準範囲）

基準値とは、大勢の異常がないと思われる人たちの検査結果から計算されたものです。

しかし、その中でも5%の人は基準範囲に入らないようになっていますので、多少外れていても問題がない場合があります。

逆に基準範囲に入っている場合、いつもと結果が大きく変わっている場合は注意が必要です。

基準値は、性別や年齢によって異なる項目があります。

結果の横のアルファベットの意味

H : High 基準値より高い結果

L : Low 基準値より低い結果

肝臓・胆のう・膵臓 機能検査

総ビリルビン(T-Bil)・直接ビリルビン(D-Bil)・間接ビリルビン(I-Bil)

赤血球が壊れることによりできる黄色い色素です。

ビリルビンが増加し皮膚や眼瞼結膜が黄色くなることを黄疸と言います。

間接ビリルビン増加：溶血性貧血、悪性貧血など

直接ビリルビン増加：肝炎、閉塞性黄疸など

AST (GOT)

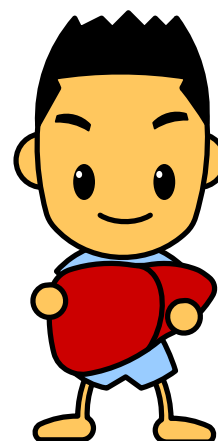
肝臓、心臓、筋肉の細胞などに多く含まれます。

増加：肝炎、肝硬変、脂肪肝、心筋梗塞、溶血性貧血、
筋肉疾患など

ALT (GPT)

肝臓の細胞に多く含まれ、肝細胞の障害をみます。

増加：ウイルス性肝炎、アルコール性肝炎、脂肪肝、肝硬変など



CHE（コリンエステラーゼ）

肝臓で作られるため、肝機能の目安となります。

増加：ネフローゼ症候群、甲状腺機能亢進など

減少：肝硬変、肝がん、肝炎、感染症、内分泌疾患、
薬剤の影響など

ALP

肝臓、小腸、胎盤、骨などに多く含まれます。

増加：肝硬変、肝細胞がん、胆道疾患、骨疾患、閉塞性黄疸、
甲状腺機能亢進症、慢性腎不全など

* 妊婦では胎盤由来の ALP が、骨新性の盛んな小児では
骨由来の ALP が上昇するため高値となります。

LD

体内の多くの臓器に存在し、細胞の障害の程度を見ることができます。

増加：急性心筋梗塞、肺梗塞、悪性貧血、白血病、溶血性貧血、
肝炎、肝硬変、悪性腫瘍など

γ-GT

肝臓や胆道の病気で異常になります。

増加：肝炎、肝硬変、肝がん、アルコール性肝障害、
薬剤性肝障害、脂肪肝、胆石症など

TP（総蛋白）

血液中の蛋白の総量です。

栄養状態や肝臓、腎臓の機能をみることができます。

増加：脱水、慢性肝炎、多発性骨髄腫、膠原病など

減少：摂取不足、吸収障害、ネフローゼ症候群、熱傷、出血、
胸腹水貯留、肝硬変など

Alb（アルブミン）

血液中の蛋白のひとつで、肝臓で作られ栄養状態の目安となります。

高値：脱水など

減少：摂取不足、吸収障害、ネフローゼ症候群、熱傷、出血、
胸腹水貯留、肝硬変など

AMY（アミラーゼ）

膵臓や唾液腺から分泌される消化酵素で、その他、肝臓、肺、
小腸、卵巣などにも存在します。

増加：膵炎、流行性耳下腺炎、肺がん、卵巣がんなど

減少：高度な糖尿病など

脂質検査

総コレステロール (T-Cho)

血液のコレステロールの総量です。

増加：ネフローゼ症候群、糖尿病、動脈硬化症、
甲状腺機能低下症など

減少：甲状腺機能亢進症、重症肝障害など



HDL コレステロール

善玉コレステロール。血管に付着したコレステロールを取り除き、
動脈硬化を防ぐ働きがあります。

減少：冠動脈硬化症、脳梗塞、ネフローゼなど

LDL コレステロール

悪玉コレステロール。肝臓で作られたコレステロールを運ぶ働きが
あります。血管に蓄積すると動脈硬化の原因になります。

増加：糖尿病、動脈硬化症、ネフローゼ症候群、
甲状腺機能低下症など

中性脂肪 (TG)

食物から摂取する脂肪の大部分を占め、食後に高くなります。
動脈硬化の危険因子とされています。

増加：糖尿病、動脈硬化症、ネフローゼ症候群、膵炎など

減少：バセドウ病、肝障害など

腎機能検査

BUN（尿素窒素）

蛋白質が分解されてできる物質で、腎臓から尿に排泄されます。

増加：腎不全、脱水、消化管出血、過剰の蛋白摂取など

減少：妊娠、低蛋白食、肝障害など

Cre（クレアチニン）

筋肉を使うと作られる物質で、腎臓から尿に排泄されるため腎機能の目安となります。

増加：糸球体腎炎、腎不全、うっ血性心不全、脱水・やけどなど

減少：尿崩症、筋委縮など

eGFR（推算糸球体ろ過量）

腎臓の中の糸球体がろ過している血液の量のこと、「年齢」「性別」「クレアチニン値」から計算します。

値が低いほど腎機能が悪いとされます。

UA（尿酸）

食物に含まれているプリン体から作られ、痛風の原因となります。

増加：痛風、白血病、悪性腫瘍、腎不全など

